政治分析10

政党の数

* 民主主義体制における正当性
  + 二大政党制・多党制・一党優位性
  + 政党数をどのように数える？→ a mixture of insignificant parties and important parties. Also disregard the nominal party system for a more realistic portrayal of the actuality of political parties.
  + 有効政党数 1/ΣPi^2
    - Pi 議席比率or 得票率 **いずれも一緒、変わらない**
    - 1/ (0.33^2 + 0.33^2 + 0.33^2) = 3

何が政党数を決めるのか？

* 社会構造
  + 民族、宗教、地域
* 選好

→ 直感的には様々な利益集団や嗜好を持った人の集団がそれぞれ選好に応じて投票するため、その数だけ政党数がある。社会構造や集団の反映

選挙制度の多様性

* 選挙制度と政党制　→ 選挙制度が生徒の数に影響を与えている
* デゥベルジェの法則
  + 小選挙区制　二大政党制
  + 比例代表制　多党制
  + 選挙区定数がMの時、M＋１の政党が生き残る
  + M+1の法則（スティーブン・リード）
  + 選挙区レベル

小選挙区制と比例代表制

* 小選挙区制度においてはトップの得票率を得る政党だけが議席を得る。そのため、トップ二つの政党のみが実質的には議席を得、その他政党を議席を得られない。
* 全国一区の比例代表選挙であれば全ての投票が反映され、全ての党に議席が入る。
* デゥベルジェが指摘した二つの効果：
* 計算方式（集計方式）の違いによって得票率が一律でも機械的に議席の数が変わってくる→ **機械的効果**
* 選挙制度において自分の投票が指標になる可能性があるとき、ちゃんと自分の投票が有効であるような政党に入れるようになる→ **心理的効果**
* → デゥベルジェの法則

小選挙区と比例代表

* 比例代表では国民の意見分布に従って政党が議会に混在し、議会の意見をまとめることに手間がかかる。議会構成の中に民意が反映されている。
* 小選挙区制では有力二党に票が集まる。議会の第１党に人工的に過半数を与え、それによって議会の進行を円滑にする。政府の仕事に不満があれば、次回選挙において政権交代をすれば良い。交代する政党という時間軸の中に民意が反映されている。

議会のモデル

* イギリスの議会
  + 本会議での討論
  + クエスチョンタイム
  + 内閣提出法案
* アメリカの議会
  + 委員会審議
  + 議員スタッフと政策立案
  + 議員立法
* **アリーナ型（闘技場型）議会**
  + 与野党の討論の場
  + 有権者という観衆
  + 政権選択
* **変換型議会**
  + 本人（constituents）の要望を法律へ変換する
  + 実質的合意形成

議会・選挙制度・政治決定

* 効率的政治決定
  + 小選挙区制
    - 人工的多数派
    - **アリーナ型議会**
* 合意形成・コンセンサスに基づく政治決定
  + 比例代表制
    - 民意を反映する議会構成＜代表制＞
    - **変換型議会**

議会と執政府

* 究極の本人：国民
* 代理人：議会
* 議会と執政府の関係
* 議院内閣制
  + 国民の代理人である議会が選ばれ、さらにその議会が代理人として内閣をおき、内閣の働きに責任を持つ。二重の本人代理人関係。有権者の意見が議会に反映され、議会の声が執政府の行政に反映される。
* 大統領制
  + 国民である本人が議会と大統領の二人の代理人を選ぶ。お互いに別の方法で選出され、互いに責任を負わず、独立的に働く。議会では各選挙区の代表である議員が選出され、選挙区の有権者の声を反映する。対して大統領は連邦代表として全国を代表する。Checks and balances.
* 本人代理人関係の違い
* 議員内閣制 – 立法府と執政府の融合
* 大統領制 – 立法府と執政府の均衡

半大統領制

地域別、時間別政治制度

* 議院内閣制がいちばん多い

ウェストミンスターモデル

* 国民の負託：Mandate
* 小選挙区制
  + 人工的多数派
* アリーナ型議会
  + 多数派による決定
* 議院内閣制
  + 立法府と執政府の融合
* 単線的本人代理人関係

→ 民主主義の典型。。。？

Majoritarian

多極共存型民主主義

* 対極としての多極共存型民主主義（レイプハルト）
* 民族・宗教・言語の多様性の統合
  + ベルギー、オランダ、スイス
* ２種類の民主主義
* **多数決型**と**コンセンサス型**

A screenshot of a cell phone

Description automatically generatedConsensual

日本政治の変化

* 日本は多数決よりコンセンサス型に分類される。
* 議院内閣制を採っているのにも関わらずコンセンサス型に分類される。
* 決められない政治
  + 二院制と強い参議院
  + 自民党一党優位時代の首相のリーダーシップ  
    なぜ日本はそれでもコンセンサスなのか？→ 選挙制度
* 中選挙区制度と派閥政治
  + 単記非移譲式投票制度（SNTV）とM+1法則
  + 「一内閣一仕事」竹下登
    - 派閥政治により自民党内でも意見が割れ、政治的な決断をして断行できない。
  + 与党審査と族議員

政治改革と決められる政治

* 選挙制度改革
  + 中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ
  + 政権交代可能な政治と2大政党性
  + 派閥政治の後退
  + 決めすぎる政治に…？
* ウェストミンスター化？

イギリスの変化

* 近藤康史『分解するイギリス』
* ウェストミンスターモデルの変容？
  + Brexit and an indecisive government
* スコットランド・ウェールズ議会（小選挙区+追加議員制（比例代表）併用制）の導入
* 欧州議会（イギリス選挙区＝比例代表制）
* マルチレベルでの混合的選挙制度

注：小選挙区比例代表並立制と併用制の違い

* 併用制では小選挙区での死票が比例代表部分へ参入される  
  二大政党制へ進む心理的効果が弱くなる。
* 並立制の場合も  
  比例代表部分・地方選挙によって、比例代表により小党が生き残る舞台があるため、心理的効果は弱い、批判票が小党に集中して政権交代しづらい（イギリスの変化の説明と同様）。しかし、二大政党制へ向かう機能的効果は、併用制よりも高い。

TAクラス

デュベルジェの法則とは：

ある選挙区の選挙区定数をMとする時、有効政党数がM+1となること

小選挙区制は二大政党制に、比例代表制は多党制に（機械的効果と心理的効果の複合的効果）